

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2020年 9月号 第 157号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

残暑お見舞い申し上げます。

報 告



8月定例会 自主研修会

8月11日、ひらつか市民活動センターに於いて、8月4日のじんかれん研修会「改革が避けられない日本の精神医療～みんなでチャンスを活かそう～」について、その日の参加者である鶴殿さん、谷田川さんから報告を聞き、その後、意見交換を行いました。（報告の概略） 参加者 11名

じんかれん研修会の講師である氏家憲章氏は、長年に亘り、民間の精神科病院で看護師として、また、労働組合委員長として働き、その経験から日本の精神医療の改革の必要性を、先進諸国とのデータと比較しながら分かりやすく説明してくれました。

- その中で日本の精神医療の一番の問題点は
- 1) 今でも精神障害者を危険視する風潮があること。
 - 2) 精神科医療費の大半（97%）が入院費に使われ、福祉にはわずかしが使われていないこと。
 - 3) 精神科の日当点（1日の入院費）は他科の1/3でしかないこと。
 - 4) 精神科特例が今でも残っており、医師は他科の1/2、看護師は1/3でよいこと。
 - 5) 高齢の長期入院者が多いこと。
 - 6) 入院者数の減少を認知症患者で補おうとしていること。
 - 7) 病院の8割が民間病院であること。
 - 8) 治療を第一義とし、人生を支援する視点が欠けていること。
 - 9) 長期入院、隔離・拘束など人権が軽視されていること。
 - 10) 先進諸国では病院を減らし地域移行が進められているが、日本では進まず、家族に負担がかか

連日の猛暑 皆様いかがお過ごしですか。

ようやく長～い梅雨が明けたと思ったら途端に30度を超す猛暑。太陽の熱が恐ろしいほどです。ときどき雨が降れば地面の温度も下がり一息つけるのですが、それもなくて、朝から太陽はピーカンと頭の上で輝いています。

熱中症で亡くなる方が記録を更新したとか、エアコンをつけないでいた方が多いようですが、命あってのものですから、我慢せず、エアコンをつけましょう。

コロナはようやく下火になる気配を見せてきたようですが、気を緩めず、ワクチンが早く開発されることを願いつつ、がんばりましょう。

家族会活動も再開しました。定員制限はありませんが、体調には十分気を付けてご参加下さい。爽やかな秋風がすぐそこまで来ています。



っていることなど。

先進諸国の中でベルギーは日本と状況がよく似ており、民間病院が多いため、地域移行がなかなか進まなかったが、それを進めるために病院の収入を国が最後まで保証する政策をとったこと、医療従事者たちの中に改革を望む声が大きくなったことなどもあり、3度の失敗を乗り越えて改革が進められたということです。

日本はヨーロッパ等の先進諸国から距離的に離れているため情報が入り難いためか、民間病院が8割を占めるという特異な状況にあるためか、なかなか地域移行が進みませんが、今こそ精神医療の貧しい実態を国民に知らせ世論を盛り上げよう、そのために私達家族も人々にこの状況を知らせて、理解者を増やす力になって欲しいと訴えられました。



<感想>

♥「日本の精神医療に思う」

日本の精神医療は先進諸国より50年遅れていると知り、我が子が当事者であることを思えば衝撃は人一倍です。つい先ごろ、急性期入院は3か月となったようですが、我が子が入院した時は3年近く入院を余儀なくされました。本人にとってみればいつになったら退院できるのか、一生病院生活になってしまうのかと絶望的状態になり、精神は落ち着かず、八つ当たりで病状は悪化。一時帰宅で安定していたにもかかわらず、医師からは退院の許可は下りず親も不安が募るばかり。こんな状態がいつまで続くのかと思うと、私も精神的に追い込まれていきました。退院させて自宅生活をさせ、様子を見て、悪化したら再入院という形はとれないものかと常々思っておりました。私には主治医もかなり強権的存在であり、とても威圧的に感じられました。息子の切なる願いで私も意を決し、心より退院を希望。やっとの思いで退院を許可してもらいました。

入院させておけば安心という医師の思惑は却って

本人が自力で回復する力を削ぐ結果となっていました。長期入院させても回復にはつながりません。今、精神的ストレスの多い社会で、健全な精神を保ち続けるのは大変なこと。医療機関受診者の第1位は精神科であることを思えば、急務を要するのは精神医療。精神科病院“崩壊の危機”は医療改革のチャンスととらえ、私達も声を上げて行かねばならないと思います。 (S.S)

♥“人生を支援”

精神疾患を持つ人が結婚したいという時、親からは勿論のこと、医者からも反対された、という話を良く聞きます。まるで精神疾患を持つ人は人並みの願いを持ってはいけないかのように考えられ、多くの方が失意の中にいます。ところが精神医療の先進諸国では、その人の人生の支援に重点を置くところまで進んでいるということを知り、日本の遅れを痛感しました。このままでは、約100年前に呉秀三博士が言った有名な言葉「この病を受けたるの不幸のほか、この国に生まれたるの不幸」が続いてしまいます。精神疾患を患っても何ら差別されることのない社会、希望を持って人生を歩める社会、そのために必要な支援を受ける事が出来る社会に変えることは今や急務です。

“この国に生まれてよかったね”と言える日が早く来るように、そのために私達家族も頑張らねばと思いました。 (Y.Y)



面接相談のお知らせ

NPO 法人じんかれんでは面接相談を行っています。静かな所でゆっくり相談できます。下記までお申し込み下さい。

☎ 045-821-8796 じんかれん事務所
火・木曜日 10時～16時

相談日 毎月第3水曜日 午後1時～4時
場所 伊勢原 KIVA (武道館そば)

これからのお知らせ

じんかれん研修会

秋のバス旅行

日時：10月15日（木） 8時～17時30分
集合時間と場所： 8時 平塚駅南口 JAビル前
行先：山中湖 水陸両用バス {カババス} 乗車
神秘の泉 忍野八海散策
山中湖畔浅間茶屋 ほうとう定食
富士急ハイランド リサとガスパール
タウン散策

募集人数：30名
参加費：当事者 3000円
 家族 4000円（昼食代・保険代込）
申込締切：10月1日（木）
申込・問い合わせ先：080-5005-0779 曾我
*当事者の方は手帳をご持参ください。
*雨天決行

秋の富士山の
ふもとへ
レッツ ゴー



楽しい思い出を たくさん作ろう～～～
バスは余裕をもって乗れるヨ
安心して参加してネ
申し込みはお早めに！！



『 家族にとっての
「対人コミュニケーションのコツ」
相手と話し合う理論と技術 』

10月6日（火） 10時～12時
かながわ県民センター304 会議室
講師 品川博二 氏

（日本ケア・カウンセリング協会代表理事）
定員 30名

品川博二氏の前回の講演は大変好評だったため、
もう一度お願いしました。ユーモアに富んだ講
演は、笑い声が溢れ、内容の深いお話です。



精神保健福祉ボランティアグループ

《こんぺいとう》 からのお知らせ

こんぺいとうでは毎月、だれでも参加できる
お茶会を開催しています。

新型コロナウイルス感染症に細心の注意を払
いながら行っています。

お茶を飲みながらのおしゃべりは、人と人との
つながりを深め、孤独から解放してくれます。

予約不要です。気楽にお出かけください。

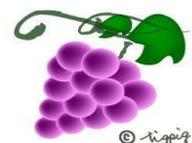
9月12日（土）13：30～

10月10日（土）13：30～

中央公民館 3階和室

参加費 100円

問い合わせ先 ☎0463-22-4515 小沢



投 稿



「家族学習会に出あって」

私の家族は弟が10代で統合失調症になり、後に子ども2人と夫も精神疾患になりました。家族会の事は既に母が入っていましたので知っていましたが、弟が5回目の入院の時に入りました。ある時、家族学習会の担当者研修会に参加してみませんか、というお誘いが会よりあり、人と人の交わりが大切と思っていましたので参加することにしました。それ以来、毎年担当者として学習会に携わっています。

学習会に参加していろいろなことが見えてきました。病気・症状・対応などについて親にはもっと深く心で学んでほしかったこと、また、本人の様々な表現は苦しみの故であること、親の対応が悪かったために余計に悪化させてしまったこと、一番つらいのは本人であり、やりたいこと、やるべきことが分かっているけどできないために、自分を責め、生きる価値さえ喪失してしまったことなど。

また、他所では「治そうとするな、分かろうとせよ」、「一言が励ますことにも、倒すことにもなる」ことを学びました。

学習会の参加者は初めは会員の中で募集していましたが、やがて、会に相談に来た人、保健所の家族教室に参加した人、また、市・町の広報で募集した人などに幅が広がり、立場も親だけでなく、兄弟、義理の兄弟、子、孫にまで広がり、いろいろな立場の人が参加するようになりました。今ではその中から担当者や会の役員になってくれる人も出るようになりました。

この学習会の大きな役割は、本音で自由に話することができること、それにより満たされ元気になること、家族関係が楽になり楽しいと思えることが増えることです。

(T.K)



～川柳～ 「コロナ禍」

- ・ コロナ禍で おしゃべり禁止 ボケ進む
- ・ マスク不足これぞチャンスと買い占めり
- ・ ほこり高き ミシンを出してマスク縫い
- ・ コロナ禍で 過剰反応 自警団
- ・ コロナ禍で 医療人責めるは 的外れ
- ・ 窓辺にて 医療人ねぎらう 国もあり
- ・ コロナ禍で 死んでも 見送る人もなし
- ・ 電車乗りや 若い人々 恐ろしや
- ・ コロナ禍で 門前払いの 精神科
- ・ 人中に 出ればうつると とじこもり
- ・ 三密を あんみつかと ひと問いぬ
- ・ アベノマスク いついつまでも 語り草
- ・ 独裁国 コロナ退治と 得意顔
- ・ 発見者 偽りものと 疎外され
- ・ 次々と 政策変わって 人惑い
- ・ GoToGoTo とコロナを乗せてどこへ行く
- ・ 東京人 来ては困ると 追い出され
- ・ 行く所 なくて河原でバーベキュー
- ・ ワクチンを めぐって世界は 争奪戦

(コスモス)



ひきこもり講演会

「老いた親が今できることは何か」

講師 和田重広氏

(小田原市青少年問題協議会委員など歴任)

9月18日(金) 10:00～12:00

平塚市勤労会館 3階 大会議室

定員: 50名 先着順

会費: 無料

申込先: TEL 0463-55-5971 (菊地)

締切: 9月13日(日)

主催: すばる(ひきこもりの親の会)

居場所かたつむり共催